

平成28年度入学試験問題（後期日程）
「小論文（地域学部地域環境学科）」出題意図

環境問題のように、扱う範囲が人文社会から自然科学まで幅広く、しかも因果関係が単純でない事象については、現段階では正解が見つからないものが多い。一見まっとうに聞こえる意見であっても、対立軸となる意見に耳を傾けることにより、議論の余地があることを知ることは、たいへん重要な考え方である。

出題にあたっては、2つの異なる領域の題材「1. 地域の活性化、2. 里地里山の利用と自然環境における里地里山の位置づけ」について考え方の異なる二者の意見を読ませ、それをふまえた上で、自分の立場を明確にして、論を展開できるかどうかを重視した。

（問1）Aさんは国という大きな地域が活性化するのであれば、たとえ一極集中であってもそれは一つのあり方として間違っていないという立場にある。一方、Bさんは、それぞれの地域の活性化が国全体の活性化には不可欠というという立場にある。

（問2）Cさんは天然のものを重視し、自然状態に戻ることがよいという立場にある。また、Dさんは現状の把握、その環境の歴史などを考慮して、自然状態へ戻ることが必ずしもいいわけではないという立場にある。

その地域の現状や来歴を科学的に調査したうえで、どのような地域の活性化や環境の保全方法が適切かを検討する必要があることに気付ければなおよい。解答にあたっては、自分の意見だけを述べるのではなく、自分の意見を的確に要点を絞って論述してもらいたいために字数は少なめに設定した。